Nadeshiko-no-kai Report

東京学芸大学附属小学校 ● 同窓会

撫子の会

会報 18 号

小学校はエンピツの匂い

会長挨拶

「母校の現状を知る」

「撫子の会」会長　佐々　智樹

撫子の会会員の皆さまには益々ご清祥の事、心からお慶び申し上げます。

平素は撫子の会運営に多大なご協力を賜り役員一同を代表して御礼を申し上げます。

さて、明治生まれの祖母が「私の孫が豊島師範の附属小学校に入学したんです」と嬉しそうに話していることを、入学したばかりの私は良く理解していませんでした。終戦直後の恵まれない時代に真新しい制服を着て、金色に輝く校章の入った皮のランドセルをしょって、伝統のある立派な校舎に登校している幸せに気がついていなかったと思います。今振り返ってみると、現在の自分があるのは母校の優れた教育と恵まれた環境のお陰だと、心から感謝しています。

伝統のある国立の学校だから優れた教育と恵まれた環境はこれからも変わらずに続いて行く、と信じている同窓生が比較的多いのではないでしょうか。実は国立学校を巡る国の対応はこのところ大きく変化しています。少子化は問題の一つだと思われますが、教育などの予算の削減が現実問題として大きく浮上しています。

同窓生の多くの人は子供の教育資金で現在悩んでいる、又は悩んだ経験をお持ちの事だと思います。子供の優れた能力を伸ばすために家族親戚一同で資金的な応援をしている方も多いのではないでしょうか。

日本の若手クラシック奏者や舞踏家が海外の有名コンクールで活躍し、若いスポーツ選手が世界を舞台に大活躍をしている朗報に接すると心が躍ります。しかし、その成果の裏には家族の大きな支援があります。人を育てて結果を出して行くには時間と資金が必要です。そのために、国による将来の日本を見据えた様々な分野での人材育成が不可欠なのです。二〇二〇年のオリンピックを目指して選手の強化に多くの資金を注ぎ、国を挙げて支援して行くと報道されていますが、オリンピックの選手強化だけではなく、文化・芸術・科学など教育分野にも、国が支援を続けて行く体制をしっかりと作って頂きたいと思う次第です。

今回お届けする第十八号会報では、今迄詳細を伝える事が出来なかった母校の現状を、関田副校長先生と撫子の会理事との座談会を通して卒業生の皆さまに知って頂くこととしました。我々の母校を健全な形で維持して行くために卒業生に何が出来るのか、この機会

に実態を共有して一緒に考えたいと思ったからです。

昨年のノーベル生理学・医学賞を受賞した大隅良典さんは、記者会見で基礎研究の重要性を幾度も強調し、政府の研究費削減傾向を憂慮していました。日本の未来を創るのは人材であり、教育の充実だと思います。母校の現状を知り、今後の我々の対応を考えて行きたいと思います。

末筆になりましたが、座談会にご協力頂き、常に撫子の会運営にご尽力を頂いている関田副校長先生に、心から御礼を申し上げます。

巻頭特別企画●母校の現状を大いに語る

同窓会

「附属小学校が無くなる可能性があると聞いたのですが？」

関田副校長

「附属学校にお金がまわってこなくなっているのは本当です。」

（日時・場所）

二〇一七年五月十三日@丸森会計事務所

（出席者）

関田副校長

撫子の会理事会

佐々、川田、大鹿、山佐、野久尾、丸森、清水　書記：神田

●母校と同窓会で　現状を共有しましょう

佐々会長　撫子の会ができて二十四年になりますが、学籍番号が一万五千を超える中、七千通の会報を送付し戻りが少なくなってきています。一方で会報を通じて、それだけたくさんの同窓生の方々に母校の現状をお伝えして、同窓会にできることを提案していくのは、なかなか難しいことです。母校は、国立の学校だから無くなることはない、未来永劫安泰なのだと同窓生は思ってしまいがちですが、母校を取り巻く環境は厳しいとうかがっています。母校の現状を同窓生の皆さんにご理解いただきたいと考え、今回、座談会を企画いたしました。是非、先生からも卒業生に学校の現状をお話しいただきたいのですが。

関田先生　附属小金井小学校は、一宇荘・至楽荘生活といった自然体験活動をしっかり位置づける教育を重視しています。時代に応じて形は変わってきていますが、伝統は守られていると思います。同窓会に見守ってもらっていることは大きいのではないか。支えられていると感じます。十一ある全国の附属学校の中で伝統ある落ち着いた良さは維持できているのではないか。大人しいとか古いとかは言われますが、それはそれでいいと思っています。

関田副校長先生

●母校の現状　～国立大学法人化の影響

関田先生　国立学校が国立大学法人化してから、財務省から文科省→国立大学→附属学校にお金が回ってこなくなっているのは本当です。それなら教員を減らすしかないので、小金井小の場合、四クラス制を三クラス制にしました。一クラス三十五人学級です。

文科省は、大学改革として、平成十六年度に国立大学を国立大学法人化して、一期六年の中期計画を推進しています。現在は平成二十八年からの三期目となり、これが最後で

はないかと思います。附属学校は、国から地域社会への貢献など様々課題を与えられ、大学と一体となって対応しています。

大学との距離が縮まったのはよいのですが、大学からの要望が多くて先生方の負担は以前より多くなったと思います。附属学校が自由に何かできる環境ではないですね。子供に向きあうだけではなくなっています。

附属学校の統廃合は現状ありません。神戸大学附属が一校なくなっただけです。逆に附属幼稚園が厳しい。現在、保育園が幼児教育の主流となっているのでニーズがなくなってきています。無くそうかという話も出ます。

野久尾　税収が減っている、少子化の影響、教員免許が私立大学でも取得できるようになって、教員養成大学である学芸大そのものの存続問題もあるとうかがいましたが？

関田先生　ゼロではないと思いますが、中期計画における学芸大学は、他の国公立の大学に比べるとかなり頑張っている方です。先生方の負担は大きいですが。教員養成大学に特化することで逆に特徴が際だってきています。

●創立百十周年までには　これは実現したい

佐々会長　以前、なかなか冷房化が進まなくて、西日の当たる教室で生徒たちが熱中症になりそうになりながら勉強している、などという話があり、同窓会で一部援助したこともありましたが、現在の施設面での喫緊の課題はなんでしょうか？　※注1

関田先生　第一運動場という上履ではいれる運動場があるのですが、老朽化しています。昭和六十三年頃、昔の食堂を壊して更地になったところに作りました。　※注2

コンクリートをはった上にゴムを流して作ったのですが、既に三十年くらい経っているので、ゴムが劣化して穴が開いたり滑りやすくなっています。今の校長は体育の先生なので、自分がいるうちに改修したいとおっしゃっています。できるだけ早くやりたいのですが、見積りをとったら一億円かかると言われました。土台のコンクリートを剝がすところから工事が始まり、透水性の水が溜まらないタイプで理想的だが、もう少し安価な方法を考えたいと思っています。なでしこ育成会からの寄附金をプールして積立てて、それを流用できないか考えています。足りない分は創立百十周年（二〇二〇年）の記念事業として申請しようかと考えています。百周年のときは、食堂の冷房化を行いました。※注3

佐々会長　大学から援助してもらえないのですか？

関田先生　どこの学校にも問題があるのです。六十年ものの桜の木が全附属学校で問題になっています。桜が寿命になっていて、倒木の恐れがあるのですが、それを切るお金さえ出せないのです。変な話、切るお金がないので「危険」と書いた看板を貼り付けている桜が学芸大学のキャンパス内にもあります。

佐々会長　耐震補強とかは大丈夫なのですか？

関田先生　附属中学の方が古いので耐震補強をしました。小学校はまだ対応していません。大学の方でも意向調査はしていますが、具体化はしていません。

野久尾　他に何か不便なことはございませんか？

関田先生　他の公立学校に比べたら環境的な配慮は恵まれているのではないかと思います。照明のＬＥＤ化やタブレットの導入などは、なかなか対応できていませんが。

逆に恵まれている部分は、学校給食の業者化を実施したので、一週間に五日給食が提供できているのは四附属の中で小金井だけですね。

●「一体化」が大切ですね

佐々会長　先生から見て同窓会に期待する部分はございますか？　提案や希望は？

関田先生　周年行事や寄附活動について、四附属でそれぞれ特徴があります。竹早と特別支援学級は学校と同窓会の一体型、一緒にやっています。小金井中は卒業生が大学に寄附して、それをそのまま中学が使えるような

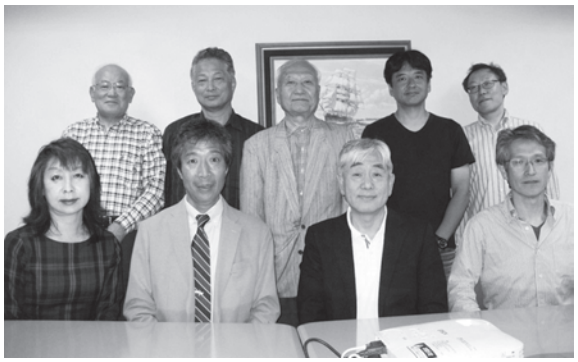
仕組み創りを校長先生が大学に依頼している。

佐々会長　同窓会としては、お力になりたいと思っています。

関田先生　寄附はありがたいと思っています。

佐々会長　私立は寄附を当たり前と思っていますが、国立はそのような意識が希薄ですね。伝統教育が資金不足で途絶えてしまうのは危惧されるのですが、かといって何ができるかというジレンマが同窓会にはあります。

大鹿　同窓会にもっと若い人たちが参加してくれるようにしたいと思っているのですが、昔は、居酒屋も喫茶店もないから、クラス会は教室を使わせてもらっていました。〝ぶらり同窓会〟の時にワンコインにして、若い卒業生に同窓会でクラス会をやりませんか、と呼びかけたらどうかと考えています。一体化を進めていくわけですね。



清水　小金井小の子は、成人式のとき地元の式典には出にくいので、そのような機会に学校に集まるのはどうか。動機づけを学校と一緒につくれたらよいのではないか。

関田先生　山内先生に習ったが、お墓まいりをしたいので場所を教えて欲しい、などとフラッと来る子もいます。最近は、ＳＮＳ等で個人的につながっているので、敢えてそのような機会を作らなくても良さそうな感じもありますね。一年に一回の総会・懇親会をどのようにとらえるのか、活かしていくのかがポイントかもしれませんね。

佐々会長　クラス会は、年をとるに従って回数が増えてくるんですね。若いうちはあまり関心がないかもしれない。でも、若い人たちが集まることで会が活性化します。昔は、同窓会で先生に会いに行く、先生に会いたいというのがありましたが、最近は在任期間が短いので、なかなか同窓会でお会いすることが難しくなっていますね。

関田先生　これは、教員のシステム上の問題で都との関係が薄くなってしまって、国立学校に勤務する先生が公立学校に異動することができなくなってしまいました。昔は附属学校で教員を務めた後、公立学校の校長・副校長になる、教育委員会へ出るなど本校の教員が行く先が用意されていたのですが、現在は、都の管理職試験が受けられないので、私立の教員養成大学に若いうちに出てしまう教員が増えています。若い先生ほど入れ替わりが激しくなっていますね。

丸森　ＮＨＫ「ようこそ先輩」のように特別授業を同窓生がやるとかは可能性はあるのでしょうか。

野久尾　附属中学校では、職場体験学習を同窓生が協力していますが、何か仕組みづくりができたら、社会人になった卒業生が母校にお返しができる機会にもなるのではないかと思うのですが。

佐々会長　昔やりましたね。先輩がどんな仕事をしているんだろう、という総合学習の走りの頃でしたね。藤谷先生の頃だった。

関田先生　学習指導要領の関係で授業時間数がどんどん増えています。今の時間数でギリギリですね。荘生活もあるのでなおさらです。また、職業学習・体験をどの学習に位置付けていくのか？いいことなのですが、中学校を教科に結び付けていけるので成立しやすいですが、小学校の場合、どの授業に入れていけば良いのか、という議論になってしまうんですね。

大鹿　同窓生の情報がなかなか掴みにくい。昭和電工の社長会長だった方が豊島の同級生でしたが、在職中は知らず、最近、新聞で知りました。

川田　同窓生の情報は、先生に集まりやすいと聞きますが、そういう情報を共有できたらいいですね。

野久尾　お忙しい先生方に何か人的にお手伝いをできることはございますか？

関田先生　二〇〇四年に女性の校長になって、もっと安全に実施しなければいけないということで、至楽荘の遠泳などの教員補助を卒業生からプロのライフセーバー変えました。本校の伝統的な指導方法を否定される部分もあったのですが、子供たちに泳ぐ喜びを知って欲しいと、六月七月の事前の指導の段階から入ってくださるようになったので、泳ぎの下手な子の指導は助かっています。放課後のサッカークラブ、FCなでしこもクラブチームとなり、コーチは教員ではなく保護者のお父さんがやってくださっています。このような感じはとてもありがたいですね。

山佐　追分校は無くなってしまったので、財源問題は依然としてありますが、母校が無くなるのでないかと心配していましたが、少し安心しました。

佐々会長　これからも母校と同窓会が一体化していくことが大切ですね。

撫子の会　本日は、お忙しい中、ありがとうございました。

※注1　平成二十五年に撫子の会から母校冷房化費用として、二〇〇万円を寄附。冷房化計画の前倒し実施に協力いたしました。

※注2　ここで話されている第一運動場は、昭和の頃とは異なります。母校の運動場は平成に入って、校舎の一部建て替えに合わせ位置・面積が変わりました。是非一度ご覧ください。

※注3　なでしこ育成会とは、保護者による任意団体で附属小学校の教育を推進していく上でのサポートを行っている。任意ではあるが、一人当たり一口五万円の六口以上を入会金として納入。

「同期会・クラス会」報告

私たちが追分小学校に入学したのは

追分昭和三十九年卒　石井　るみ子

私たちが追分小学校に入学したのは、昭和三十二年、最後の追分小学校の生徒でした。そして、平成二十九年三月ですべてのクラスメイトが六十五歳になりました。

私たちは入学してから、三年生まではずっと下級生がいなかったのですが、四年生からは竹早小学校に移校し、突然、下に三学年の下級生ができました。しかし竹早小の生徒とも先生とも混ざることはなく、間借り状態の学校生活でした。といっても、制服も変わり、校章は「なでしこ」から「竹」に代わりました。竹早組は一組と三組、追分組は二組と四組となり、卒業までクラス替えはありませんでした。二組の担任は向山先生、私たち四組は五年生までは柄沢先生、六年は腰山先生で卒業を迎えました。

柄沢先生は、当時二十六歳のはつらつとしたスポーツウーマン、さっそうとして、今思えば、「新進気鋭の女史」という雰囲気の先生でした。

戦後まもなく、こういう女の先生のもとで学ぶことができたことは、幼い私たちの人間形成において、多大な影響力があったと思っています。私個人的には、先生と同じ女の子の一人っ子という境遇であったこともあり、自立した女性を目指し、生きてこられたのも先生との出会い抜きには考えられません。

私たち小学校の六年間をともに過ごしたクラスメイトは、どちらかというと家族のような感じで、毎年のクラス会も皆当たり前のように集まり、卒後五十年以上経ったとは思えないほど自然に、話に花が咲きます。

私たちのクラス会は、卒業後ずっと開催されていたわけでなく、三十年くらい前から、はじめは二組の園田氏の居酒屋で二組四組の

有志が集まっていたのですが、その後、幹事が回り持ちし、場所を変えながらお二人の先生を囲み集まるようになりました。そして腰山先生が亡くなられた後、高崎にお住いの柄沢先生の乗り物の便もあり一九九六年から現在のように、上野のレストランで柄沢先生を交えて集まるようになりました。

最近は、柄沢先生も高齢（今年八十六歳）になられ、クラス会のたび「これで最後これで最後」とおっしゃいますが、秋になると、何事もなかったように、見慣れた顔が集まります。

柄沢先生の話題は、政治、社会や教育論に、私たちが小学生であった時と変わらぬ歯切れの良い持論が展開され、私たちは発破をかけられる思いです。我々の話題は時の流れとともに、子供のことからペットの話題に、仕事の話から病気の話題に代わりましたが、二次会までにぎやかに和やかに話は尽きません。クラス会の写真は、平成二十七年秋のものです。

四年前に父が亡くなり、実家の荷物整理をした時に、昔の写真が目に入り、なでしこの会に送らせていただきました。

追分小学校の運動会と四年生の林間学校で日光に行った時の写真だと思います。柄沢先生の若々しいお姿、遠足に同行された父兄の方々の名前もすらすら言える懐かしい写真です。

六年二組クラス会

小金井昭和四十六年卒　辻　真実子

三年二組の教室で、私たちが深海龍夫先生と初めてお会いしてからちょうど五十年のこの四月、喜寿を迎えられた先生をお招きしてのクラス会を開くことができました。卒業時四十一人のうち、二十四人が集まり賑やかな会となりました。担任を持たれるのが初めての初々しかった先生も御髪は真っ白に。当時のわんぱく達も還暦間近の分別盛り（？）となりました。

あの頃、最も若い先生のお一人。休み時間には一緒に遊んでもらえるのが嬉しくて、教室に帰る間もまとわりつき、腕にぶら下がり、給食に先生の嫌いなグリーンピースが出れば特盛りをし…と容赦のない私たちでした。

ご専門が理科だったので、授業の思い出というとニワトリの卵の孵化やフナの解剖のことが必ず話題になります。（あれ以来、生卵が食べられなくなった、という男子も。）

八歳から十二歳という、人間の基ができる時期の私たちに、持てる全てを注いでくださったのです。

クラス会の席上、先生が「今でも二日に一遍は皆さんの出てくる夢を見ます。」とおっしゃったのは小さな驚きでした。（うなされておいでなければいいのですが！）私たち

が先生から薫陶を受けたのと同様、先生の中にも私たちの「痕跡」が、くっきりと残っているのでしょうか。

担任となられた最初の日、先生は黒板に「キュッキュッキューの…」と、おぼえやすい語呂合わせをしながらご自宅の電話番号を書いて下さいました。もちろん名簿を見れば調べられるわけですが、何かあったらいつでも電話するように、という子ども達へのメッセージだったのです。ご自宅に積極的に電話を、という先生は、昨今なかなかいらっしゃらないのではないでしょうか。深海先生は(当時の附属の先生はそうだったのかもしれませんが)、教師の仕事はここまで、と線を引いてしまうようなことはなさらなかったのです。

運動会や学芸会の代休には、子ども達を何人かずつご自宅に呼んだり、スケートなどに連れ出してくださったりしたこともありました。附属小学校のハードなカリキュラムの傍ら、こうしてプライベートな時間まで割いて下さった陰には、奥様の多大な内助の功があったことは言うまでもありません。

「家内は今でもあなたたちの苗字を言えば、『誰々ちゃん』と下の名前も言えるんだよ」そんな風にして、私たちは育てていただいたのでした。

現在も週三日、ベネッセの研究機関に通われているほか、講演・講義にと、まだまだ現役としてご活躍中です。

昨年、体調を崩されたことがあり、大変心配しているのですが、余人をもって代えがたく、なかなか楽隠居ということにならないようなのです。少しお仕事のペースを落として、お好きなテニスを長く続けられますように、と願わずにいられません。そして私たちも、いつまでも笑顔で集まることができますようにと願いつつ、拙文の筆を置かせていただきます。

(平成二十九年四月二十二日、新宿柿傳にて)

小金井昭和五十一年卒 三組クラス会
―内藤省孝先生を偲んで

小金井昭和五十一年卒　岩崎　真紀

よいお天気になった二〇一六年十一月五日。国分寺で開かれた十三年ぶりのクラス会には、寂しいことに「内藤省孝先生を偲ぶ会」という副題がついてしまいました。

内藤先生は、我々の五、六年生の二年間を受け持ってくださいました。おそらく、全員の第一印象は「怖い」だったと思います。少し浅黒いお顔、威厳のある風貌。「人にやさしく、自分にきびしく」これが始めに先生が掲げられたことでした。短かい言葉で表された大変難しいこの目標は、卒業四十年が過ぎた今でも、全員の心に深く刻まれていると思います。教壇に立たれると、教室全体の空気がさっと引き締まるような気がしましたし、一対一で先生と向き合う時などは、何もかもお見通し、といっ

た感じで緊張したことを覚えています。

反面、大変優しくお茶目な面もおありで、一宇荘のハイキングの時に歌われた「セロリのおじさん」（おそらく先生ご自身の作詞作曲）の歌は多くの人が覚えていることでしょう。一宇荘生活のスナップでは、にこにこと優しく微笑まれる先生に、女子達が子犬のようにじゃれついていました。大変厳しく、優しく私たちに接してくださいました。

そして、幹事全員があと少し早く開催していれば、という気持ちで臨んだクラス会には、関西から日帰りで駆けつけてくれた方、初参加の方々など男性九名、女性十四名が集まりました。各自近況報告や、先生との思い出を話し始める頃には、用意された名札も必要なかったと思えるほど、あの頃にそのままタイムスリップしたようでした。卒業文集、「なでしこ」や卒業アルバムに赤面したり、「そんなことあったっけ？」というようなエピソードが披露されたり。会の終盤では、卒業時の「なでしこ」に寄稿された先生の文章が読み上げられました。今の我々より十歳ほどお若い先生を、我々がかなり年寄り扱いしていたことや、先生がどのようなお気持ちで我々に接していらっしゃったのかが綴られていて、大人になった今、改めて先生のお気持ちに触れた気がしました。

先生にご出席いただけなかったことが大変悔やまれますが、「みんな立派に大きくなって。」と優しく笑ってお許しくださったのでは、と思っています。内藤先生、次回のクラス会で、またいくつか年をとった私たちをご覧ください。

特別寄稿

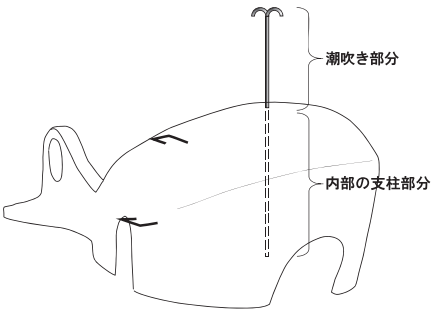
くじら号 まもなく半世紀

小金井昭和四十六年卒　鈴木　敬一郎

くじら号を巡る記憶と推測の脈絡のない話をお許しください。六年生の担任の大場先生ご自身が写真を撮ってクラスの一人ひとりに持たせてくださった手製アルバムに写真がありました（写真中段）。同級生がくじら号は「自分達の代の卒業記念として作成したはずだ」と情報をくれました。卒業が昭和四十六年ですから、母校の記念誌の昭和四十五年年頃製作の情報と符合します。左下に細く斜めに立入り禁止の荒縄が写っているので、大場先生がアルバム用写真の撮影を始めたころ完成間近だったものと思います。すぐ後に学級園、奥には当時の給食室の厨房が写っています。昭和四十二年七月のほぼ同じ場所の写真があり（写真下段）、以前はくじら号の場所にシーソーがあり、右手の竹垣の奥には附属幼稚園がありました。

くじら号の唯一の記憶ですが、くじら号完成直後はイラストのように頭の上に金属製の

潮吹きが有りました。ところが、この潮吹きは早々に折れてしまいました。卒業文集のプロフィールによると、私は〝悪質ないたずらの常習犯〟だったようで、別の場所で遊んでいたときに大場先生が飛んできて、犯人を見つけて勝ち誇ったような満面の笑みを浮かべて「鈴木！折ったのはお前だろ！」と、いつもの大きな声でおっしゃいました。



私　「いいえ、これは僕じゃありません。」
先生　「本当か！正直に言え！」
私　「やった時は、やったって言います。これは違います！」
先生　「よし、わかった。他を探す。」

ホントに本件は私ではありませんが、記憶の確認の為、今年二月母校へ行き、受付で要件を伝えると、関田副校長先生が案内をしてくださいました。

大人になると校庭は子供の頃の三分の二位に狭く感じられました。逆に子供にとってくじら号が今より五割くらい大きく感じられたとしたら、かなりの迫力があったと思います。現在、潮吹きはありませんが、くじら号の頭のてっぺんに、直径四センチ弱のパイプの根元が残っていました。関田先生によると二十年年位前には潮吹きが付いていて、生徒が遊ぶ姿の記憶があり、その後も外観は何回か化粧直しの塗装が行われたそうです。潮吹きも修復された時期があったようです。

昔の記憶は尽きたので今に残る手がかりをたどってみます。今回、内部をのぞいて初めて知ったのですが、イラストの点線のように潮吹きパイプの根元から下はくじら号の中を床面まで届いており、コンクリート製ドームの天井部を支えているようにも見えます。くじら号のコンクリートの分厚い壁の内部の構造がもう少しわかると当時の意匠デザイン、強度設計、製作関係者の技術的な思い入れ、苦労にもう少し触れられそうな気がします。

さらに想像ですが、同窓会報十七号に掲載されている「くじら号製作中」の写真に写っている骨組構造と取り巻く生徒さんの様子からはドーム状のコンクリート製の造形物をつくる作業以外の可能性を感じました。現在残るコンクリートのくじら号を作る前に実物大模型を作ったときの写真ではないでしょうか。前例のないくじら号製作にあたり、多くの関係者の合意を得る為に試作による説明は必要だったと思います。当時の関係者の御苦労を想像できる歳になり、二〇二〇年には半世紀を泳いだくじら号に「まだ、頑張れよ！」と励まされたような気がしました。

くじら号製作中

なつかしの写真館

【会報十七号で紹介の謎の場所】

▽文房具「秀文堂」さんの校内出張販売所「校文堂」があったところでした。昔は、階段下でおじさんが販売していました。昭和六十年頃からは、一階の廊下に仮設売場を設けていました。皆さんもお世話になったのではないでしょうか。現在は、東門前のお店も閉店、「校文堂」もなくなってしまいました。でも、「秀文堂」さんは今でも無店舗で営業を続けられていて、在校生の体操着や水着、赤ふんを取扱っています。

実は、「秀文堂」さんは、追分校からのお付き合いだそうです。東門前の以前は、追分にお店があったそうです。ご記憶の方、いらっしゃいますか？

第十一回総会報告

平成二十八年十一月五日、約四十名の同窓生が小金井小学校の食堂二階に集まり、「撫子の会」総会が開かれました。

報告＝副会長：川田　紀雄

冒頭、佐々会長より、豊島、追分、小金井の伝統を次世代に繋げていきながら、同窓生が集い憩う場を提供していきたいとの挨拶がありました。

●平成二十七年収支決算および監査報告
特に問題なく承認されました。

●任期満了に伴う役員改選
理事会より新役員案が提案され、承認されました。

●同窓会ホームページの更新状況について
保坂理事より音源その他追加コンテンツについての更新状況の報告がありました。

●一宇荘・至楽荘利用案内について
豊島修練会の木村様より利用状況についての説明がありました。

●母校からの報告について
関田副校長より母校の状況についての報告がありました。

懇親会報告

『撫子の会総会』を開催しました！

報告＝理事：清水　洋岐

平成二十八年十一月五日土曜日、秋真っ只中の武蔵野は、好天に恵まれました。この日は、二年に一度の撫子の会総会の開催日でした。

平成四年に豊島・追分・小金井の三校の同窓会が一緒になり、『撫子の会』としてひとつになってから、早くも四半世紀を迎えます。

今回も小金井小学校の食堂をお借りし、総会に続き、懇親会を開催いたしました。出席者が多かったとは言い難いものでしたが、幅広い年代間の交流ができました。

来年も秋に、『ぶらり同窓会』を予定しています。武蔵野の秋を見つけに、ぶらりでかけてみませんか？

●新役員

会長	佐々　智樹	小金井	昭39卒
副会長	川田　紀雄	小金井	昭41卒
	野久尾　悟	小金井	昭51卒
理事	大鹿　晏弘	豊島	昭30卒
	柴田　通彦	豊島	昭35卒
	山佐　和雄	追分	昭33卒
	神田　薫	小金井	昭46卒
	保坂　健二	小金井	昭52卒
理事	清水　洋岐	小金井	昭56卒
	吉田　朋弘	小金井	昭58卒
	浦田　智則	小金井	昭60卒
監事	丸森　康平	小金井	昭51卒
	楠本　維大	小金井	昭58卒
特別顧問	藤田　輝夫	豊島	昭19卒
	金子　修也	追分	昭25卒

平成27年度収支決算報告

・平成27年度（平成27年4月1日～平成28年3月31日）

●収入の部

（科目）	（金額）
・前年度繰越金	12,082,558
・総会当日入金	105,000
・入会費	1,130,000
＊H28年3月卒業生×113名	
・寄付－支援・総会参加費	888,470
・利子	2,634
収入合計	14,208,662

●支出の部

（科目）	（金額）
・会報16号印刷郵送費	1,036,906
・第3回「ぶらり同窓会」経費	146,487
・郵送費	1,674
・慶弔費	33,510
・HP維持改訂費	43,632
・次年度繰越金	12,946,453
支出合計	14,208,662

＜内訳＞
・会報16号・・・・モノクロ印刷12p　　8,000部、7,194部発送

平成二十八年度寄附者一覧

杉村久仁子　豊島昭和11
堀内英男　豊島昭和13
谷川幸子　豊島昭和13
田中淑子　豊島昭和13
高田都一郎　豊島昭和14
山谷渉　豊島昭和15
宇井昌生　豊島昭和16
高木美典　豊島昭和16
樋田並照　豊島昭和16
藤井宏　豊島昭和16
浅羽英子　豊島昭和16
福島通夫　豊島昭和17
信澤健夫　豊島昭和17
山内幸子　豊島昭和17
井上勝　豊島昭和18
石崎津義男　豊島昭和18
永嶋達雄　豊島昭和18
山谷弘子　豊島昭和18
今井康文　豊島昭和19
藤田暉夫　豊島昭和19
清水昭雄　豊島昭和19
山下洋子　豊島昭和19
川瀬知子　豊島昭和19
片山澄子　豊島昭和20
八田暁子　豊島昭和20
大久保靖彦　豊島昭和22
椎名國雄　豊島昭和22
白井孝欣　豊島昭和22
横山和子　豊島昭和22
井上毅　豊島昭和23
木村泉　豊島昭和23
高橋幸佑　豊島昭和23
本多照昌　豊島昭和23
波多野梗子　豊島昭和23
中村恭子　豊島昭和23
西岡節子　豊島昭和23
大橋文子　豊島昭和23
大島祐　豊島昭和24

大塚弘介　豊島昭和24
松村衛　豊島昭和24
代居倫太郎　豊島昭和24
磯部雄彦　豊島昭和25
水野忠俊　豊島昭和25
田中義信　豊島昭和26
阿部典子　豊島昭和26
緒方道生　豊島昭和27
高井延幸　豊島昭和27
関口鱗至　豊島昭和27
永井辰枝　豊島昭和27
白木真佐子　豊島昭和27
池田幸繁　豊島昭和27
西野晴子　豊島昭和27
鈴木寛子　豊島昭和27
外池百合子　豊島昭和28
中原典夫　豊島昭和28
丸山勝彦　豊島昭和28
方波見悦子　豊島昭和28
剣持裕雄　豊島昭和29
高木祥子　豊島昭和29
岩城百合子　豊島昭和29
河合桂子　豊島昭和30
青木輝彦　豊島昭和30
大鹿晏弘　豊島昭和30
佐藤宏允　豊島昭和30
桶本貴子　豊島昭和30
岩田恭子　豊島昭和30
森永光子　豊島昭和30
久保田時人　豊島昭和30
櫻洋一郎　豊島昭和30
田丸宏　豊島昭和30
江野ひさ子　豊島昭和30
大久保俊為　豊島昭和31
林久美　豊島昭和31
河西直　豊島昭和31
金子正子　豊島昭和32
井上裕美　豊島昭和32

佐々木裕子　豊島昭和33
小山實　豊島昭和34
御園生妙子　豊島昭和35
柴田通彦　豊島昭和35
高橋秀直　豊島昭和37
飯田悦功　豊島昭和37
萩原博芳　豊島昭和38
矢口純子　豊島昭和39
渡部みさ子　豊島昭和39
竹内久子　追分昭和22
小林太郎　追分昭和25
野本紀子　追分昭和26
藤澤治美　追分昭和26
深澤昕子　追分昭和26
山下清明　追分昭和29
山川明子　追分昭和30
小幡利江　追分昭和31
青柳誠　追分昭和32
井口孝俊　追分昭和32
一井敦子　追分昭和32
渡辺隆史　追分昭和32
岡村悠江　追分昭和32
宮部一弘　追分昭和33
山佐和雄　追分昭和33
白土文英　追分昭和33
藤田豊彦　追分昭和33
高柳道治　追分昭和34
阿部淑子　追分昭和35
斉之平伸一　追分昭和36
立岩純子　追分昭和36
工藤泉　追分昭和38
山本裕美　追分昭和38
磯源喜　追分昭和39
佐々智樹　追分昭和39
石井るみ子　追分昭和39
宇都宮篤司　金井昭和40
吉久光一　金井昭和40
田代郁夫　金井昭和40
堀田睦夫　金井昭和41
新藤直子　金井昭和41

安田頼明　金井昭和41
小畑茂　金井昭和41
川田紀雄　金井昭和41
渡辺昇　金井昭和41
高木織江　金井昭和41
内丸忠文　金井昭和42
川名隆司　金井昭和42
森本由起子　金井昭和42
戸谷雄洋　金井昭和42
清水直美　金井昭和43
田中耕次　金井昭和44
牛嶋純子　金井昭和45
高木真人　金井昭和46
宮下真美　金井昭和46
神田薫　金井昭和46
高木純子　金井昭和46
保田宗良　金井昭和46
坂下香澄　金井昭和46
梅里典子　金井昭和47
菅野理恵子　金井昭和49
中川徹　金井昭和49
山崎貴士　金井昭和50
尾崎佐織　金井昭和51
小川寛紀　金井昭和51
野久尾悟　金井昭和51
丸森康平　金井昭和51
岩崎真紀　金井昭和51
根本学　金井昭和51
湊信明　金井昭和51
神藤薫　金井昭和51
小川直紀　金井昭和52
保坂健二　金井昭和52
長谷川毅　金井昭和52
折井浩郎　金井昭和52
小薗江郁子　金井昭和53
小川史朗　金井昭和55
清水洋岐　金井昭和56
野田盛稔　金井昭和56
吉田美穂子　金井昭和56
栗原有里恵　金井昭和56

井原奈央子　金井昭和56
川尻恵子　金井昭和56
前田澄子　金井昭和57
丸茂朋史　金井昭和57
田村香子　金井昭和58
楠本維大　金井昭和58
吉田朋弘　金井昭和58
藤本直也　金井昭和59
小出雅子　金井昭和60
浦田智則　金井昭和60
永岩侑子　金井昭和61
田村宣哲　金井昭和62
中田尚博　金井昭和63
藤原道治　金井昭和63
浅中三貴子　金井平成2
大石庸介　金井平成5
山下奈々恵　金井平成7
山下大輝　金井平成10
松山由佳　金井平成12
谷山克也　金井平成16
山井健太朗　金井平成17
熊埜御堂沙英　金井平成18
永森拓馬　金井平成19
石塚里菜　金井平成21
坪沼利明　金井平成23
増谷玲音　金井平成23
鈴木美卯　金井平成24
本澤綾　金井平成25
青木澪　金井平成26
安富瑞　金井平成27
内藤孝典　金井平成27
石井慶太郎　金井平成27
加藤建午　金井平成27
矢嶋千穂　金井平成27
岩原冬馬　金井平成28
新谷優太　金井平成28
柴田尚志　金井平成28
村谷尚志　金井平成28
吉田さくら　金井平成28

「撫子の会」からのお知らせ

▽『ぶらり同窓会』開催

・日　時　平成二十九年十一月十八日（土）
・懇親会　午後三時より
・場　所　附属小金井小学校食堂二階
・会　費　二十歳以上　二千円（懇親会費を含みます）
　　二十歳未満　無　料

▽ホームページ担当からのお知らせ

・同窓会ホームページもリニューアル中です。
(http://www.nadeshikonokai.jp)
新たに、各期の同窓会情報、同窓生の現在などのほか、過去の学校生活にまつわる資料、情報、エピソードなどの他、会報で紹介しきれなかった記事や写真もフォローアップ予定です。
情報は、nadeshiko@nadeshikonokai.jp まで。

▽会報への寄稿のお願い

・皆さんと創る会報を目指しています。
クラス会・同窓の仲間の集い、母校の歴史ほか何でも。
先ずは先にお申し出ください。
川田　紀雄　電話（〇四二―三二四―九九一二）
野久尾　悟　電話（〇三―三七二〇―八〇二三）
メールアドレス　nadeshikokaiho2013@gmail.com

【今年のコレなんだ？】

今も残るこの石柱なんでしょう？（二〇一六年夏撮影）
昔はバス停も近くにありました。

▽懐かしい写真・思い出の写真をお寄せください。
何か新たな発見があるかもしれません。

●編集後記

今になってみると、お話をうかがってみたかったことが山ほどある。腰山先生や大場先生にサッカーへの情熱、高浦先生に絵画の話、担任だった内藤先生に子供の頃の私について。いつかきっとでは、いつもきっと実現しない。逢わなければ話せないこと、もしかしたら逢っても話せないかもしれないけれど、でも、逢えたら。逢えたら、きっと。あなたにも。（野久尾）

※昨年の会報（十七号）にご寄稿くださった豊島小高等科昭和十二年卒の森秀夫さんは、附属中学校の副校長も務められた森先生です。同窓生の一人として寄稿したい、とのご希望がございましたので、特に詳細をお伝えしておりませんでしたが、「もしかして」のお問合せが寄せられていました。

「撫子の会」会報　第18号

発　行　平成29（2017）年８月
編　集　野久尾 悟
印　刷　神林印刷㈱

〔投稿寄稿問合せ先〕
川田 紀雄（電：042－324－9912）
野久尾 悟（電：03－3720－8023）

〔同窓会事務局〕
東京学芸大学附属小金井小学校内
〒184-8501 東京都小金井市貫井北町4-1-1
電　話：042-329-7823
ファクス：042-329-7826
撫子の会郵便振替口座：00100－8－709121
加入者名：撫子の会